

課題：果樹のヤガ類被害防止のための超音波防除技術の普及

ねらい

阿讃山麓地帯は年間降水量が少なく日照時間が長いという恵まれた気象条件下で落葉果樹が栽培されています。とくに梅雨明けの7月下旬から9月上旬に成熟する晩生のモモやナシは高品質の果実を生産することができます。しかし、この時期に成熟する品種はヤガの被害を恐れてほとんど栽培されていないのが現状です。

このため、本県果樹研究所等が開発した超音波による果樹のヤガ類被害防止装置の展示圃を設置し効果を実証するとともに、講習会、マニュアル等を通じて果樹農家へ周知と技術の普及を図ります。

活動地域・対象

対象地域：鳴門市、板野郡

対象農家：モモ、ナシ、ブドウ等落葉果樹栽培農家

普及活動の目標

果樹のヤガ被害防止対策の普及

超音波利用によるヤガ被害防止技術の普及

目標に向けた活動概要

・展示圃等の設置

鳴門市大麻町のモモ栽培農家に超音波ヤガ被害防止装置を設置し効果の検証を行いました。また、果樹研究所県北分場内のモモ品種圃場の実証試験園を設置し、品種別、時期別の被害防止効果を調査しました。

・ヤガ飛来状況調査

鳴門市大麻町、板野町、上板町のモモ栽培園地でのヤガ飛来状況調査を実施しました。

・検討会の開催

展示圃設置地域のモモ部会においてヤガ被害対策技術および超音波発振機の効果について検討。

・ヤガ対策研究会の開催

超音波とヤガの行動に関する山口大学渡辺准教授による講演、展示圃の成績報告等を行うとともに、県北分場内に設置した超音波発振装置の検討を行いました。

・ヤガ対策マニュアルの作成

果樹を加害するヤガの種類、生態や既存の防除法および超音波を利用した新しい防除技術に関するマニュアルを作成。

普及活動の成果

展示圃の成績

展示圃におけるモモ果実の被害（山根白桃）

	収穫果	被害果	被害果率
超音波設置樹	669	1	0.15
その他の樹	5667	37	0.65

展示圃におけるヤガ飛来数（7/26）

	アケビ コノハ	アカエ グリバ	ヒメエ グリバ	その他	合計
超音波樹	0	0	0	0	0
その他の樹	1	1	0	0	2



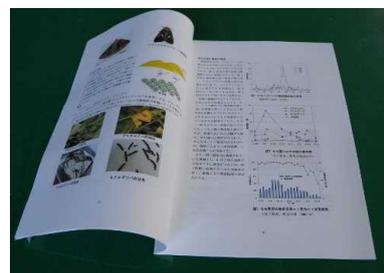
展示圃の状況



検討会の開催



研究会の開催



マニュアルの作成

用語説明 ヤガ：果実を吸汁加害するヤガ科のガの総称。アケビコノハ、アカエグリバなど。
超音波：人に聴こえない高い周波数の音（20kHz以上の音）

今後の発展方向

- ・研修会、マニュアル配布等を通じて、ヤガ被害防止技術の周知を図ります。
- ・生研センター、メーカーと連携し超音波発振装置の改良と低コスト化を図ります。

関係者からの声

展示圃設置農家：超音波発振機設置によりヤガの被害が減少し効果は高かった。
研究会出席農家：防蛾灯ではヤガ被害防止効果が十分でなく、超音波に期待したい。

高度技術支援課

連絡先：徳島県名西郡石井町石井字石井1660 tel：088-674-1922